

- 問1 律令制度に基づく中央官制において、神事をつかさどる神祇官とともに、政治の最高機関として位置づけられた組織を何といいますか。その下に八省を従え、実務を統括した名称を答えなさい。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
1. 六波羅探題 2. 評定衆 3. 太政官 4. 摂政
-
- 問2 672年に起こった壬申の乱のあとの政治的な変化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
1. 乱はわずか一日で鎮圧されたため、それまでの豪族中心の政治体制に大きな変化は生じなかった。 2. 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。 3. 勝利した側が唐の制度をすべて廃止し、日本独自の貴族による合議制を確立させた。 4. 乱を平定するために武士の力を借りた朝廷は、これを機に武士の政治的な実力を認めるようになった。
-
- 問3 法隆寺の五重塔などの伝統的な建築物には、地震の揺れを逃がす仕組みとして「心柱（しんぼしら）」という技術が使われています。この心柱の構造を応用し、中心部に鉄筋コンクリート製の筒を配置して制振効果を高めている現代の建造物を選びなさい。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. 瀬戸大橋 2. 明石海峡大橋 3. 東京都庁舎 4. 東京スカイツリー
-
- 問4 中大兄皇子（天智天皇）らが、有力豪族であった蘇我氏を打倒して開始した「大化の改新」と呼ばれる政治改革の主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
1. 仏教の力を借りて、国家の混乱を鎮めること 2. 大陸との交易を制限し、独自の文化を育てること 3. 武士の力を結集し、地方の反乱を抑えること 4. 天皇を中心とした、新しい国家のしくみをつくること
-
- 問5 7世紀の日本の出来事をまとめた歴史の年表において、聖徳太子が小野妹子らを中国の隋へ派遣したという記述があります。この時、進んだ制度や文化を日本に持ち帰ることを目的として派遣された使節の名称を答えなさい。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 朝鮮通信使 2. 遣明使 3. 遣隋使 4. 遣唐使
-
- 問6 聖徳太子が小野妹子を隋の皇帝のもとへ派遣した際、国書の中で示した外交姿勢やその目的についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 秋田県公立入試 類似)
1. 中国の皇帝に臣下として仕えることで、日本国内での支配権を認めてもらうことを目的とした 2. 中国の優れた制度や仏教文化を学び、対等な立場での国交を結ぶことで日本の地位を高めようとした 3. 唐から戒律を伝える高僧を招き入れることで、国内の仏教界の規律を整えることを目的とした 4. 朝鮮半島での軍事的な優位を保つため、隋に対して援軍の派遣を要請することを目的とした
-
- 問7 7世紀半ば、朝鮮半島の北部に高句麗、南東部に新羅、南西部に百済が位置していた時代、中大兄皇子らは、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた「半島の南西部に位置する国」を復興させるために大軍を派遣しました。この出来事に関連する戦いの名称として正しいものはどれですか。 (2026年 青森県公立入試 類似)
1. 刀伊の入寇 2. 元寇 3. 白村江の戦い 4. 壇ノ浦の戦い
-
- 問8 大化の改新から始まる律令制度のもとでは、戸籍に基づいて人々に土地を分け与える仕組みが整えられました。この仕組みにおいて、土地が与えられる対象となる年齢と、その土地が返還されるタイミングの組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 6歳以上になったときに与えられ、一定の税を納めている限り永久に所有が認められた。 2. 6歳以上になったときに与えられ、本人が死亡したときに国へ返還された。 3. 15歳以上になったときに与えられ、耕作ができなくなった時点で没収された。 4. 15歳以上になったときに与えられ、本人が死亡したときに家族へ受け継がれた。
-
- 問9 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。 (2020年 奈良県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。 2. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。 3. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百済を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。 4. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。
-
- 問10 推古天皇が聖徳太子を「摂政」に登用して行った政治の説明として、当時の制度や目的をふまえたものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
1. 武士の力を抑えるために聖徳太子を任命し、地方の反乱を鎮圧するための軍事指揮権を与えた。 2. 天皇を助けて政治を行う役割として聖徳太子を据え、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を目指した。 3. 平城京への遷都を円滑に進めるため、聖徳太子に新しい都の設計と建設の全権を委ねた。 4. 日本独自の国風文化を育てるため、聖徳太子に命じて遣隋使の派遣を停止し、大陸との交流を断った。
-
- 問11 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。 2. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。 3. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。 4. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。
-
- 問12 8世紀の初め、現在の群馬県にあたる地域に建てられた「多胡碑」には、朝廷の命令によって新たな郡が設置されたことが記されています。このように、唐の制度にならって定められた法律に基づき、地方の行政区画を整備することで形成された、天皇を中心とする中央集権的な国家の仕組みを何といいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 幕藩体制 2. 律令国家 3. 守護・地頭制 4. 封建国家
-
- 問13 飛鳥時代、聖徳太子が仏教を政治に取り入れた影響を受け、各地の有力な一族が競って寺院を建立しました。このような寺院建立の主な目的や当時の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
1. 武士が戦乱の世を逃れ、極楽往生を願って山奥に阿弥陀堂を建立した。 2. 地方を治める国司が、天皇の代替わりのたびに新しい行政拠点として建立した。 3. 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立した。 4. 聖武天皇が仏教の力によって国家の災いを取り除こうと考え、全国に一律の規格で建立した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 太政官	律令国家の統治機構は「二官八省」と呼ばれます。その中核である太政官は、中務省や式部省といった八つの実務機関（八省）を指揮し、国の政務全般を決定する最高行政機関としての役割を果たしました。
問2	答え 2 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。	壬申の乱で勝利して即位した天武天皇は、それまでの豪族たちが政治の実権を握る体制を改め、天皇に権力を集中させました。これにより、天皇を中心とした中央集権的な法制度に基づく「律令国家」の形成が加速することとなりました。武士が政治的な力を強めるのは平安時代末期以降のことです。
問3	答え 4 東京スカイツリー	五重塔の内部には中心を貫く独立した「心柱」があり、各層と固定されていないために地震の際に揺れを相殺する役割を果たしています。この古代からの知恵は、高さ634メートルを誇る東京スカイツリーの設計において「心柱制振」という最新技術として活用されており、歴史的な伝統技術が現代の先端建築の安全性を支える貴重な事例となっています。
問4	答え 4 天皇を中心とした、新しい国家のしくみをつくること	蘇我氏のような特定の豪族が政治の実権を握る状況を打破し、土地や人民を国家（天皇）のものとする公地公民の制などを導入しようとしてしました。これは、当時の中国の律令制度を模範とした中央集権的な国家体制の構築を目指したものです。
問5	答え 3 遣隋使	聖徳太子は推古天皇の摂政として、当時中国を統一していた隋の進んだ制度や文化を積極的に取り入れることで、天皇中心の国づくりを進めようとしてしました。この目的のために派遣された使節が遣隋使であり、小野妹子がその代表的な人物として知られています。
問6	答え 2 中国の優れた制度や仏教文化を学び、対等な立場での国交を結ぶことで日本の地位を高めようとした	聖徳太子は「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」という有名な一節を国書に記し、隋に対して対等な立場を強調しました。これは、当時の中国を中心とした冊封体制（君臣関係）から脱却し、最新の文化を吸収して天皇中心の国家体制を整えるための背景がありました。高僧（鑑真）の招致は後の奈良時代の出来事であり、隋への援軍要請もこの時の目的ではありません。
問7	答え 3 白村江の戦い	中大兄皇子（のちの天智天皇）は、友好関係にあった百済を再興させるために朝鮮半島へ軍を送りました。しかし、663年に白村江で唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北により、日本は唐・新羅による日本への侵攻を警戒し、九州に水城を築いたり、対馬や九州に防人を配置したりするなど、防衛体制の強化を急ぐことになりました。
問8	答え 2 6歳以上になったときに与えられ、本人が死亡したときに国へ返還された。	律令制度における「班田収授の法（班田収授法）」の説明です。この制度では、6歳以上のすべての人々に性別や身分に応じて「口分田」という土地が与えられました。土地はあくまで国家から借りているものという考え方であったため、本人が死亡すると国に返還すること（収授）が義務付けられていました。
問9	答え 1 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国は、大陸からの侵攻に備えて防衛を強化するとともに、強力な中央集権国家を形成する必要に迫られました。その後、672年に起きた壬申の乱に勝利した天武天皇、およびその跡を継いだ持統天皇によって、日本初の本格的な都城である藤原京の造営が行われ、律令国家の仕組みが整えられていきました。
問10	答え 2 天皇を助けて政治を行う役割として聖徳太子を据え、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を目指した。	推古天皇の時代、有力豪族である蘇我氏の影響力が強い中で、天皇は聖徳太子を摂政に任命することで、血縁や家柄に依存しない官僚制（冠位十二階）などの導入を図りました。これは、特定の豪族に権力が集中するのを防ぎ、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くことが目的でした。
問11	答え 4 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問12	答え 2 律令国家	7世紀後半から8世紀にかけて、日本は中国（唐）の高度な統治システムを取り入れ、刑罰を定めた「律」と、政治の仕組みを定めた「令」を整備しました。これにより、全国を国・郡・里といった行政区画に分け、中央から役人を派遣して土地と人民を直接支配する中央集権体制が確立されました。多胡碑はこの仕組みが地方まで浸透していたことを示す資料です。
問13	答え 3 豪族が自らの経済力や政治的な権威を周囲に示すため、一族の氏寺として建立了た。	飛鳥時代には、法隆寺や飛鳥寺に代表されるように、聖徳太子や蘇我氏などの有力な豪族が最新の文化である仏教を取り入れ、その勢力を誇示するために寺院を建立しました。これらは「豪族寺院（氏寺）」と呼ばれ、特定の氏族の繁栄を祈る性質が強いものでした。一方、選択肢にある「国家を守るために全国に建立された寺院」は、奈良時代の聖武天皇による国分寺・国分尼寺を指しており、建立の主体や目的が異なります。